



家屋の模型を使って床下浸水への対応を説明

ご支援ありがとうございました

災害ボランティアセンターの開設期間中、全国の企業、団体、個人様より、飲料水・マスク・タオル・資機材など、多くの支援物資をお寄せいただきました。ご提供いただいた皆さま、ありがとうございました。

被災地に行かずにできる支援

『日本赤十字社』や『共同募金会』などに災害義援金を募金することで、被災地に行くことなく支援することができます。よろしくお願いします。

日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp/>
日本赤十字社 検索

赤い羽根共同募金 <https://www.akaihane.or.jp/>
赤い羽根共同募金 検索

自分にできることを

災害ボランティア：稲田 徹 様

災害ボランティアに参加したきっかけ

偶然、テレビのニュースで、災害ボランティアの募集をしていることを知り、地元で自分にできることがあれば力になりたいとボランティアを申込みました。

活動内容

他のボランティアの皆さんと5人のグループになり、城島町の床上浸水した自宅から濡れた畳や家具などの運び出しを行いました。

参加した感想

率直に人の役に立つことができて良かったです。職場の社会貢献の一環ではなく、個人としての参加は初めてでしたが、一緒に活動した皆さんもとても良い人だったので、人の優しさを感じ、自分にとっても良い経験をさせていただきました。

起きて欲しくないですが、再び災害が発生した時は、災害ボランティアとして自分にできる活動をしたいと思っています。



稲田さん(右から2人目)と一緒に活動された皆さん

講習会・相談会の開催

今回、特に被害の多かった城島校区と北野校区において、浸水した床下の適切な対応方法について、実演を交えた講習会・相談会をモデル的に開催しました。

浸水して濡れた床下を乾燥しないままにしておく、カビが生え、木が腐ったり、予想せぬ健康被害を受けたりと二次被害に遭う恐れがあります。参加者は、床下乾燥のポイントや注意点等、熱心に聞いていました。

今後を見据えて

久留米市では、ここ数年、毎年のように豪雨に見舞われ、多くの人が被災されています。市社会福祉協議会では災

また、講習会終了後には、相談会を行い「床下の消毒を頼んでいる。しかし、床下がまだ乾かないので、資機材を貸して欲しい。」私は高齢で、自分ですることができない。「今日の講習をもっと早く聞きたかった。」など多くの声が寄せられました。

令和2年7月豪雨災害

～被災者への想いをつなぐ～

『力になりたい』

災害ボランティアセンターを開設(7月9日～8月5日)



濡れたふすまの搬出

被災者を支えるボランティア活動

被害が大きかったところでは、床上の約80センチメートルまで水があがってきたところもありました。ボランティア

7月の豪雨災害により、久留米市でも多くの世帯で、浸水被害が発生しました。市社会福祉協議会では、市との協定に基づき災害ボランティアセンターを開設し、床上浸水の世帯を対象にボランティアの派遣を行いました。災害ボランティアセンターは、被災者からニーズを聞き取り、ボランティアの募集や派遣を行うことで、被災者が日常生活に戻るよう支援します。今回の豪雨災害で、延べ73件のボランティア依頼を受け、延べ415人がボランティア活動に参加しました。



畳を搬出する高校生たち

ボランティアの皆さんは、声をかけて話を聞くなど、被災者の気持ちに寄り添いながら、畳や家財道具の搬出、拭き掃除などを中心に活動されました。また、依頼できていない人もいるのではないかと、各家庭にチラシをポスティングする作業も手伝っていただきました。

「畳や家財道具が濡れ、重くて動かせない。」「カビが生えてきているので、早く片づけたいが人手が足りない。」「など、自分たちだけでは対応ができないという被災者を支援するために力を貸してくれたのが、ボランティアの皆さんです。」

コロナ禍における災害ボランティア活動

今回の災害ボランティア活動にあたっては、従来の熱中症予防に加え、新型コロナウイルス感染防止の視点も求められました。

災害ボランティア活動から感染者が発生しないよう、専門機関等の助言を受けるなど工夫を重ねました。

感染防止のための工夫

- ボランティアの募集の範囲を県内在住者に限定
- オリエンテーションの動画を作成し、事前に配信
- 密を避けるため、集合時間を分散
- 車輦での移動は乗車定員の半分以上
- 当日は受付で検温を実施
- 手指や資材の消毒の徹底
- マスク、手袋を着用

など



受付で体温を測る様子



代表者だけを集めて作業の説明